

高温に対する農作物の技術対策について

令和8年5月28日
農業技術課

<天気概況>

甲府地方気象台の週間天気予報によると、週末にかけて気温はかなり高温で推移する予報となっています。今後の気象推移に注意し、農作物の管理には注意して下さい。

<気象予報> 気象庁 5月28日 5時時点

山梨県の天気予報（6日先まで）								
2026年05月28日05時 甲府地方気象台 発表								
日付	今日 28日(木)	明日 29日(金)	明後日 30日(土)	31日(日)	01日(月)	02日(火)	03日(水)	
山梨県	曇	曇後晴	晴時々曇	晴時々曇	晴時々曇	曇時々晴	曇一時雨	
降水確率(%)	-/20/30/10	10/0/10/10	20	20	20	30	50	
信頼度	-	-	A	A	A	A	C	
甲府 気温 (°C)	最高	28	33	31 (29~34)	31 (28~33)	31 (29~33)	27 (24~32)	26 (24~32)
	最低	-	21	15 (13~17)	15 (13~17)	16 (13~18)	15 (13~18)	16 (14~19)

1週目の予報（日別）

29 30 31 1 2 3
金 土 日 月 火 水

33	31	31	31	27	26
21	15	15	16	15	16

2週目の予報（5日間平均）

4 5 6 7 8
木 金 土 日 月
(2~ (3~ (4~ (5~ (6~
6日) 7日) 8日) 9日) 10日)

28	28	28	28	28
17	18	18	18	18

	かなり高い
	高い
	平年並
	低い
	かなり低い

1 果樹

<共通>

- モモ、スモモ等は果実肥大期、大房系のブドウでは、開花期となっている。
- 乾燥する場合は、7～10日間隔で、1回あたり20mm程度の十分なかん水を行う。
- 草生栽培園では、定期的な草刈りを実施し、水分競合を避ける。
- 樹冠下は、わらマルチや草刈により土壌の乾燥を防止する。特に苗木や若木では徹底する。

- かん水施設等のない園では、樹冠下を中心に1樹当たり200～300リットルをかん水する。
- アザミウマ類やハダニ類の発生が多くなることが懸念されるため、定期的な防除を徹底する。

<施設ブドウ>

- 果粒軟化期以降からは、高温多湿によるムレ（果粒への結露）を抑えるため、換気が遅れないように注意する。
- 果粒軟化期は高温により着色不良や品質低下を招きやすいため、適切な換気やこまめな散水を行う。

<ブドウ>

- 開花期となるため、高温乾燥による落蕾を防止するため、適切なかん水を行う。
- 高温で推移する場合、生育が前進するため、栽培管理や防除が遅れないようにする。

<モモ>

- 日焼け果防止のため、着色期の過度な葉摘みや新梢（徒長枝）の剪除は避ける。
- 高温により果実の生育が進むため、除袋が遅れないよう注意する。
- 反射光の強いマルチは、日焼け果などが起きやすいので、白色マルチを使用するか、反射マルチを敷く量や反射程度（古いマルチや裏面の使用など）を調節する。着色が進み次第マルチを除去する。
- 下垂枝は、支柱設置やつり上げにより反射マルチとの距離を確保する。

<オウトウ>

- 過熟果の発生が予想されるため、適期収穫に努める。
- 花芽分化期以降の高温、乾燥は翌年の双子果の発生原因となるため、20～30mmのかん水を定期的に行うとともに敷ワラ等により土壌乾燥を防止する。
- ハダニ類の発生に注意し、収穫後も定期的な防除に努める。

2 野菜

- 健全な生育を促すため、定期的にかん水する。
- 地温の上昇と水分の蒸散を抑えるため、敷きワラや敷き草を行う。
- 草勢が落ちている場合には、必要に応じて液肥の葉面散布を行い、回復を図る。

- ハダニ類、アザミウマ類、オオタバコガ等の害虫による被害の増加が懸念されるため、発生状況を把握し、発生初期の防除に努める。
- 施設栽培では、強制換気や遮光等により施設内温度の上昇を防ぐとともに、適宜かん水する。

<スイートコーン>

- 雄穂出穂以降から収穫まで降水量が少ない状態が続くと、果実の肥大不足や先端不稔をまねくため、適宜かん水する。
- 収穫の遅れは果実の萎び発生につながり品質低下となるため、適期収穫に努める。

3 水稻

- 育苗にあたっては、気象の推移に応じてきめ細かい管理を行う。特に、最高気温に注意し、トンネルまたはハウスの換気・水管理等に十分注意する。
- 田植え直後に高気温が予測される場合の水管理は、苗が倒れない程度の水量で掛け流しとする。

4 花き

- 鉢花・洋ランは、日中ハウス内が高温にならないよう、遮光や換気を徹底する。また、鉢の乾燥に注意し、こまめな水やりに努める。

5 その他（熱中症対策）

暑熱環境下での作業は、熱中症（熱射病、熱けいれん、熱まひ）を生じる恐れがあるので、次の事項に注意する。

- 気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の作業時間を工夫する。
- 水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給する。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に気を付ける。
- 帽子の着用や汗を発散しやすい服装を着用する。
- 作業場所には日よけを設ける等、できるだけ日陰で作業する。
- 屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし室内の換気に努める。
- 作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか、断熱材で隔離し加熱された空気は屋外に排気する。